

## ②知的障害者援助技術

**課題:**知的障害者援助において、支援者に求められる原理・原則を簡単にまとめ、それらを遂行するために実践の中でおこなえることを具体的に述べなさい。

現在の社会福祉援助において、人権の尊重、自立した生活といった考えは、ノーマライゼーションの 8 つの原理に集約され、福祉制度の根幹とされている。そしてこの理念を達成する為、エンパワメントの概念に基づき当事者と共に力を高め、時に危険にさらされる、権利の侵害から守り、QOL を高めて行く事が、援助者としての目標と言える。

バイスティックの 7 原則はソーシャルワークの基本姿勢について述べたものだが、障害者支援においても援助技術の基本として重視されている。この原則を、ノーマライゼーションの理念に基づき、支援員としての日常業務と照らし合わせ、以下に項目ごとに述べる。

### 1.個別化

障害者が様々に抱える問題は、本人の性格、生活環境、感情、支援員側の資質等により、様々に変化していく。例えば 1 人の利用者が興奮していた場合の対応方法として、支援者がすぐに声をかけ会話をを行う、本人・周囲に及びそうな危険を取り除いた上で静かに見守る等、複数の対応が考えられるが、どのような支援を行うかを、別の障害者に対する、同じような境遇の過去の経験のみから判断してしまうと、かえって混乱を招く場合もある。知り得た利用者の情報を吟味し、個々に応じた判断を行う事が、適切な支援と繋がる。

### 2.意図的な感情の表出

子供の頃から周囲の大人の決定に従う事に慣れてしまい、大人になってからも、支援員の提案等を何でも受け入れてしまう障害者は少

なくない。受け入れる事を全て肯定と捉えてしまうと、支援員側の都合を押し付けてしまう危険もある。やり慣れた毎日の軽作業等においても、時に支援員側が意識的に感情を表出させる事で、障害者自身が様々な場面で自分の置かれた状況や感情を再認識し、意思を表現しやすい環境を作ると同時に、支援員側が提供するものが、本当に本人のニーズに沿ったものかどうかを常に意識していく必要がある。

### 3.統制された情緒的関与

支援者も人である以上、障害者が問題行動を起こした時、否定的な感情が生まれる場合もある。しかし、その感情をそのまま表現する事は、支援者の個人的な感情を述べるに過ぎない。問題行動に対する適切な応答を行う為にも、感情が生まれた原因を、常に吟味し、冷静に対応する事が必要である。

### 4.受容

障害者に限らず、長所、短所を含めた他人の全てを受け入れるという行動は非常に難しく、また漠然と受け入れてしまうと、不適応行動も許容してしまいかねない。「3.統制された情緒的関与」とも重なる事だが、問題に直面した時に支援員として必要な事は、まず利用者が何故そのような行動を起こしたのか、相手の側の気持ちに立ち考える事である。どんな事でも行動を起こす理由は存在する。過程があり結果に繋がる事を、常に意識する事が、受け入れるという事ではないだろうか。

### 5.非審判的態度

たとえ障害者の行動をすべて受容しても、社会的、道徳的に反した行動に支援員が直面した場合、そのまま放置するわけにはいかない。しかし支援員の目的は援助であり、行動を管理・監督する事では無い。原因解決に向けた支援者に出来る取り組みは、「4.受容」で述べた、問題行動に対する過程の理解・分析を踏まえ、必要な情報を伝えていく事であり、障害者自身が行動の過ちに気付かない限り、根本的な原因の解決には繋がらないことに注意しなければならない。

#### 6.自己決定

「2.意図的な感情の表出」で述べたように、自己決定が苦手な利用者も少なくないが、支援員は無言の肯定を利用せず、必要な判断が出来る情報提供を可能な限り行い、意思表示が困難な重度の利用者であれば、道具を活用する、表情の変化を読み取る等、最大限の努力が必要である。

#### 7.秘密保持

支援に携わる以上、利用者の個人的な情報は欠かすことは出来ず、中には利用者が周囲へ知られたくない情報を得る場合もある。そういった情報を外部に漏らさない事は職業倫理上当然であるが、利用者本人に対しても、不用意に口に出してしまう事は、利用者側が、支援員に不安を抱くことに繋がりがねない為、細心の注意を払う必要がある。

障害者援助にあたり、福祉の理念の多くには、受容の重要性が説かれているが、実際の現場では、経営上の都合による支援体制や、他利用者との集団行動とのギャップから、理想通りの対応が難しい場面は少なからず存在する。しかし援助者の都合や、環境に責任を転換せず、いかに原理・原則に沿った行動を取れるかが、我々支援者にとっての課題といえるだろう。

**講評:**全体的な流れも、原則のまとめもしっかり書かれており、お考えが伝わってくる内容でした。また、実践についても現場での取り組みが反映されている印象を受けました。ご苦労さまでした。